

## 「西塩子の回り舞台」裏方ばなし～歌舞伎を支えるプロの技、体験！～

皆さんは、「西塩子の回り舞台」の舞台背景が歌舞伎座の絵描きさんたちの手によるものであることをご存じですか？平成14年から始まって、舞台の組み立てと地芝居公演の度に彼らはプロの技を惜しまず発揮し、参加したボランティアとの交流を楽しんでいます。今回は、7月6・7日に行った舞台背景制作の様子をご報告します。

### とっても大事な大道具「舞台背景」

「西塩子の回り舞台」は、丸太と竹の骨組みに菰を葺いた素朴な芝居小屋。これを華やかな歌舞伎舞台へと変身させるのが、幕や舞台背景など数々の大道具です。

舞台の間口一杯に引かれた「大幕」は、いわば開演前の農村舞台の顔。しかし、幕が開いた舞台上で主役となる大道具は、フスマと呼ばれる舞台背景です。木枠に紙を張り、表裏に背景を描いたフスマは12枚で1セット。このフスマを数多く保有していることが舞台を持つ村の自慢でした。

ところが、古いフスマの高さは150cmで現代人の身長に合わないため、使用するのが困難。そこで、平成14年から高さ180cmのフスマの新調を開始。偶然知り合いだった専門家に相談したところ、快く描画を引き受けてくださったという訳です。

### 歌舞伎の「大道具」って何？

歌舞伎には「大道具方」と「小道具方」があり、それぞれ別の役割を担います。芝居の中で役者が手に持って使うものが「小道具」、舞台装置が「大道具」。大道具さんは、背景画や建物などのセット制作と、それらを舞台上にセッティングする仕事を主に受け持っています。

西塩子の舞台でお世話になっている田淵さん、長澤さん、田口さんは、17代続く江戸歌舞伎の大道具師 長谷川勘兵衛の流れを汲む、歌舞伎座専属の大道具の会社で背景画の制作を担当されている、まさにプロ中のプロ。今年は、大宮北小学校の子どもたちが、体育館のステージで歌舞伎を上演する時に使用する背景画を描くために、梅雨明け直後の常陸大宮市にいらっしゃいました。

### 旧塩田小体育館で作業開始！

大宮北小子ども歌舞伎で使う舞台背景は、三番専用の老松を描いた「松羽目」と、白浪五人男の「稲瀬川桜堤」の2景。縦3m×横7.2mの大きな布に描いていきます。

背景描きの作業には、毎回ボランティアの参加がありますが、今回は「舞台背景制作体験教室」として実施。見学を含め、中学生から一般の方まで、20人程の参加がありました。

まず、ブルーシートの上に広げた生地に、田淵

さんが原図を元にチョークで正確に下絵を描き、長澤さんと田口さんは、必要な色と量の絵の具を準備します。使うのは、背景制作で伝統的に使われてきた泥絵の具。2人の指導のもと、参加者は午前中いっぱい、絵の具を練る作業に汗を流しました。

午後はプロのお仕事。目指す色に調合した絵の具を刷毛に含ませ、田淵さんと谷口さんが組になってバックの羽目板をぐんぐん塗っていき、長澤さんがすかさず松を描いていきます。その手際は見事の一言。半日で松羽目のベタ塗りと、稲瀬川桜堤の下書きまで完了しました。

### 参加者も背景制作を体験

初日はプロの技に見とれていた参加者たち。2日目は筆を持って実践です。伝統の描き方をご指導いただき、午前中いっぱい練習。午後はいよいよ師匠たちの描いた松の上に、緊張した筆先を下ろし、ひたすら松葉を描き込んでいきます。…約3時間後、松葉を描き終え、布のゆがみを取るために松羽目をステージに下げると、参加者からは、感嘆と満足の声が漏れました。

もう1景と共に、仕上げは8月。参加した皆さんは、今後、役者の芝居だけでなく、舞台を支えている大道具にも、つい目が行くようになることでしょう。



▲プロの指導で舞台背景制作を体験。(この松羽目のほぼ倍の大きさがある新しい歌舞伎座の松羽目も田淵さんのデザイン。二つはいわば兄弟分です。)

歴史民俗資料館大宮館 ☎52-1450 FAX52-5233

※月曜日・祝日休館

西塩子の回り舞台保存会公式ホームページ

<http://mawari-butai.jp.org/>